Orthodontists' Group of Central Japan

耳鼻科と矯正歯科の「連携医療」。それはもっと患者さんのかになるための、新しいチャレンジです。

最近、耳鼻科と矯正歯科による「連携医療」という言葉を耳にする。これは耳鼻科と矯正歯科がチームワークを組んで、患者により高いレベルの治療を提供しようとするもので、医療の世界で異例の新しい試みである。この「連携治療」に積極的に取り組んでいる愛知医科大学耳鼻咽頭科の中山明峰助教授に、そのメリットや問題点などをいろいろ語っていただいた。

扁桃って、なに?

よく「扁桃腺」と一般的に言われるのが、医学では扁桃と呼びます。扁桃は人間にとって大切な免疫機能でありますが、昔は甲状腺などと同じような内分泌腺と間違えられていた時代がありました。その為に「扁桃腺」という言葉が世の中に広がってしまい、今では医者でさえ間違えて呼ぶくらい誤った言葉として広がってしまいました。 扁桃は鼻、口やのどの奥にいくつかあります。それぞれ違う名前がついていますが、一般的に言われている「扁桃腺」は口を開けたときに見える奥歯の奥にある口蓋扁桃です。同じ扁桃でも鼻の奥には咽頭扁桃、通常アデノイドと言われるものがあります。これらの扁桃が通常より大きいと鼻がつまったり、飲み込みが悪くなったり、ぽかーんと口を開けていたりするのです。

なぜ最近は扁桃の手術をしなくなった?

扁桃は鼻や口から入ってくるばい菌をキャッチして殺すところです。ところが弱い扁桃はばい菌を殺すどころか、ばい菌との戦争に負けたり、ばい菌を体に入れてしまうのです。その為、扁桃の弱い子供は高熱を出したり、のどが痛くなり、学校を休まざるをえません。戦後、医学が今ほど発達していない時、熱を出す子供はすぐに扁桃を手術することが頻繁になされました。ところがその後、抗生物質の発達、少子化で親が手術のリスクに対する認識を強めたことなどから、だんだんと手術がなされなくなりました。その為近来、われわれがする手術例はなん十回も炎症をおこしたようなひどい症例が増えています。このようなひどい症例の手術を慎重に行う為、そして子供に恐怖感を与えない為、ほとんどの手術が局所麻酔から全身麻酔に切り替えられました。今ではほとんどの開業医では手術をなさず、大きな医療施設でないと扁桃の手術をしません。

なぜ今さら矯正歯科と耳鼻科が連携医療を?

矯正歯科医としては口蓋扁桃が大きいから歯列が悪くなる、矯正装具をつけるに際して口蓋扁桃が邪魔、そして口蓋扁桃が大きいままだと矯正してもまた歯列が悪くなることなどを考えて、耳鼻科医に扁桃の手術を依頼します。ところが多くの耳鼻科医は熱を出すことが無ければ手術の必要性はないと考えがちで、さらに扁桃も免疫機能の大切な役割を果たしていることなどから歯科医の手術依頼には消極的でした。

しかし最近、睡眠時無呼吸症候群という病気が注目されるようになり、呼吸がうまくなされないといろんな病気を引き起こすことから、扁桃の手術に対する再認識がなされるようになりました。私が愛知医大睡眠医療センターに携わり始めた3年前、中日本矯正歯科医会から扁桃に関する講演会の依頼がありました。講演会後、矯正歯科先生方の熱心な医療に対する姿勢に打たれて、中日本矯正歯科医会と愛知医大耳鼻科で長期にわたる医学的追跡を始めたのです。

どのような連携医療を?

中日本矯正歯科医会の先生方に訪れた患者さんの中で鼻づまりのひどい方、扁桃の大きい方、よく熱を出す方、睡眠時に大きないびき音を出したり、呼吸が止まったりする方などを愛知医大に紹介して頂きます。耳鼻科の検査としてはレントゲンなどの検査で蓄膿やアレルギーがあるか、アデノイドが大きいかをみて、それから直径3㎜ほどのファイバーカメラで鼻の奥、のどの奥をみます。鼻、口から肺に入るところまで、つまり気道というものを狭くする因子があるかどうか調べます。治療に入る前に必ずそれぞれにあった治療方法を患者、または患者の両親と相談しながら決めます。

手術が必要であれば手術し、薬などで治る方は薬で治します。最近愛知医大では新しい「高周波治療」というものを始め、大人の場合扁桃を小さくするのに日帰りでもできるようになりました。これらの治療を終了してから、または治療しながら矯正をして頂くのです。

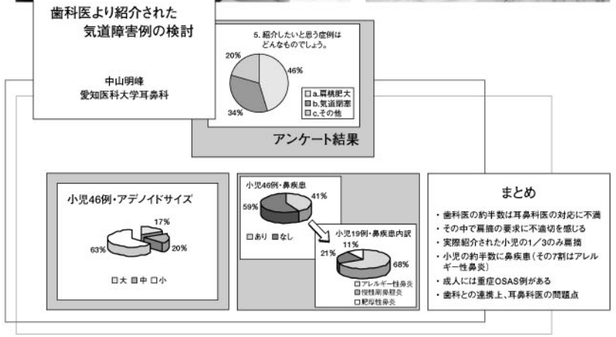
その結果は?

連携医療を開始してから約5年が経過しました。受診した患者も100名以上を越え、日本耳鼻咽喉科学会地方部会などでも第一報を報告することができました。この報告から今まで矯正歯科医と耳鼻科医がお互いに持っていた「誤解」を解く鍵を見いだすことができました。それは多くの矯正歯科医が気道閉塞を起こす原因だと思っていた扁桃肥大がそれのみならず、アレルギー性鼻炎も多く潜んでいたこともわかりました。これらの医学的な根拠を収集することによって必要のない手術はせず、必要な手術のみを行ってきた結果、多くの患者、または患者の両親が耳鼻科受診の必要性を感じて下さるようになりました。さらに患者によっては手術したことにより、子供の成長が急速に伸びたことを喜んで下さっています。

手術した患者をさらに年単位で追跡し、手術を受けた結果、頭蓋骨の成長にまで影響を与えるのではないかという大がかりの連携医療を行っています。このような追跡は恐らく世界でも行っている施設は少ないだろうと考えています。

最後に・・・?

美容的なことのみでなく、歯列不正の再発防止、さらに全身の為を考えての連携医療を行うことで、次世代に対してより優れた矯正医療のお手伝いを続けて行きたいと考えています。歯列が不正になるには何か原因が隠れている可能性があります。是非そのような理解をなされ、また連携医療を考えていらっしゃる矯正歯科の先生にご相談して頂きたいと思います。



略歴

1985年 3月	愛知医科大学医学部卒業
1986年10月～87年9月	静岡県掛川市民病院耳鼻咽喉科
1988年 4月～92年3月12日	愛知医科大学大学院卒業・医学博士修得
1992年 4月～95年8月	アメリカ南イリノイ大学耳鼻咽喉科留学
1995年 9月～2001年3月	愛知医科大学耳鼻咽喉科講師
2000年 9月～現在	愛知医科大学睡眠障害センター副部長
2001年 4月～現在	愛知医科大学耳鼻咽喉科助教授

学会会員

特別会員 (Active Member)	日本平衡神経科学会
一般会員	日本耳鼻咽喉科学会
	耳鼻咽喉科臨床
	日本耳科学会
	アメリカARO学会
	その他、計12学会参加

著書

・21世紀のめまい診療・海外のトピックス	医薬ジャーナル	2001年
・Epley法のすべて（良性発作性頭位めまい症の治療）ビデオテープ 翻訳・監修	丸善書店	2000年
・高齢めまい患者の集団精神療法	東京医学社	2000年
・ぐっすり眠りたい ― いびきの研究はまだ短くて難しいもの ―	日本文芸社	1999年
・めまい患者って変?	看護の科学社	1998年 など

今回お応えいただいた
愛知医科大学耳鼻咽喉科助教授
愛知医科大学睡眠障害センター副部長
中山　明峰（なかやまめいほう）氏

INFORMATION

日本矯正歯科学会市民公開講座

早めの歯ならびチェック“良い歯ならびと健康”

日　　時：平成14年10月22日（火）、午後1時30分～4時
場　　所：愛知県芸術文化センター（名古屋市中区栄）
コーディネーター：後藤滋巳先生／日本矯正歯科学会理事（愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座教授）
演　　者：筒井照子先生／日本矯正歯科学会理事（北九州市）
テーマ 噛み合わせと生活習慣
居波　徹先生／日本矯正歯科学会 学校歯科保健委員会委員（宇治市）
テーマ「8020」のための第一歩は良い歯ならびから
参加人数：180名（定員になり次第、お断りする場合がございます。）
参 加 費：無料
主　　催：日本矯正歯科学会
協　　賛：日本臨床矯正歯科医会
中日本矯正歯科医会
後　　援：名古屋市学校歯科医会

事務局・お問い合せ先:
〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11
愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座内
第61回 日本矯正歯科学会大会 市民公開講座開催事務局
TEL.052-759-2162　FAX.052-751-8900
E-mail　nawa@dpc.aichi-gakuin.ac.jp
市民公開講座担当／名和弘幸

中日本矯正歯科医会は東海三県（愛知・岐阜・三重）の矯正歯科開業医によって作られている会で、東海地区の矯正歯科専門開業医のほぼ95パーセントが所属しております。
中日本矯正歯科医会には専門の教育を十分に受けた矯正歯科開業医だけが加入しています。

お子さんが、鼻でうまく息が出来なくて（いつも口で息をしている）、歯並びでも悩んでいるお母さんへ　そんな悩みにお答えいたします。中日本矯正歯科医会までお問い合わせください!

中日本矯正歯科医会

Member : Orthodontists' Group of Central Japan

http://www.ortho.gr.jp/

〒460-0003 名古屋市中区錦2-9-27 名古屋繊維ビル3F
TEL 052-201-6480　中日本矯正歯科医会事務局

関連するホームページは…
愛知県歯科医師会　http://www.nhk-chubu-brains.co.jp/ad8020/
日本矯正歯科学会　http://www.jos.gr.jp/
日本臨床矯正歯科医会　http://www02.so-net.ne.jp/~hahaha/